

令和2年 第1回 伊丹市教育委員会 定例会 会議録

1. 日 時 令和2年（2020年）1月23日（木）午後2時00分～午後3時00分

2. 場 所 総合教育センター 2階 講座室

3. 出席者 <教育委員会>

教育長	木下 誠	教育委員	秋田 久子
教育委員	江原 礼子	教育委員	川崎かおり
教育委員	川畑 徹朗		

<事務局>

教育次長	二宮 叔枝	こども発達支援センター所長	岡本 綾子
教育総務部長	山中 茂	社会教育課長	吉岡 督典
学校教育部長	佐藤 幸宏	スポーツ振興課長	古結 孝広
こども未来部長	大野 浩史	図書館長	中田 正仁
生涯学習部長	村田 正則	博物館長	中畔明日香
教育長付参事	多田 勝志	人権教育室主幹	森口 真一
学校教育部副参事	廣重久美子	社会教育課長	吉岡 督典
総合教育センター所長	太田 洋子	職員課主査	福本 恭
職員課長	植松 俊二	教育政策課長	木村 克治
施設課長	宮木 哲男	教育政策課副主幹	石田 亮一
施設課主幹	巽 正樹	教育政策課主査	内垣 亜弥
学事課長	蓼原 恵	教育政策課	寺内 みこ
総合教育センター主幹	永嶺 香織		

4. 欠席者 なし

5. 傍聴人 1人

6. 議 事

(1) 開会宣言 木下教育長（午後2時00分）

(2) 日程報告 木下教育長より次のとおり会議を進める旨の発議があり、全委員はこれを了承。

日程第 1 令和元年第12回定例会会議録の承認

日程第 2 教育長報告

日程第 3 議案第1号の審議

日程第 4 議案第2号の審議

日程第 5 議案第3号の審議

日程第 6 議案第4号の審議

木下教育長より「日程第1及び日程第2、日程第3、日程第4については、個人情報を含むため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項の規定に基づき非公開にしたいと思いますが、よろしいでしょうか」との発議があり、全委員はこれを了承。

日程第1及び日程第2、日程第3、日程第4は非公開の秘密会となる。

(3) 令和元年第12回定例会会議録の承認（日程第1）

令和元年第12回伊丹市教育委員会定例会（令和元年（2019年）12月26日（木）開催）会議録については、全委員一致でこれを了承。

(4) 教育長報告（日程第2）

教育総務部長より「1月分人事報告」・「12月分教育施設関係工事の着工・竣工報告」・「12月分の寄附採納報告」について、学校教育部長より学校教育部及び市立伊丹高等学校の、こども未来部長よりこども未来部の、生涯学習部長より生涯学習部の、教育長付参事より人権教育室の「12月分行事实施報告」・「2月分行事实施予定」について、それぞれ説明があり、質疑応答の後、全委員一致で「教育長報告」を承認。

質疑応答

江原委員

4ページの学校指導課の12月行事实施報告について。1日（日）に開催された伊丹市いじめ防止フォーラムに参加させていただき、中学生がしっかりとした考えを述べている姿は非常に頼もしかった。生徒たちが、いじめられていることを周りの人に話せない子どもの心情や教員の対応についての課題をしっかりと捉えていることに感心するとともに、このようなことが学校運営協議会を含め、各学校で広がってほしいと思った。

2点目は、6-1ページの総合教育センターの12月行事实施報告について。12日（木）に開催されたICT活用推進担当者会②に関連することをご報告させていただく。先週、文部科学省で開催された市町村教育委員研究協議会に参加し、分科会で教育の情報化について協議した。そこで課題とされていたのは、子どもたちの情報活用能力の育み方、また、そのための教員の指導力の向上方策である。本市もICTの整備はこれからであり、多くの市町村が同じ状況であることが分かった。そのなかで本市が進んでいると感じたのは、タブレットを各学校に導入する際に、効果的な活用方法についての研修を丁寧に実施してくださっていることであり、非常にありがたいと思った。子どもたちがネット上にあふれる情報を正しく判断する力を身につけるためには、先生方の指導力に因るところが大きい。

地に足つけた運用ができるよう今後も引き続き対応をお願いしたい。

3点目は、16ページのこども未来部の12月行事実施報告について。24日（火）に開催された青少年問題協議会でのご意見等を教えていただきたい。

こども未来部長

複数あるが、非行防止対策については、広報・啓発の取組状況、相談活動や声掛け等の補導活動の実績をご報告いただいた。いじめ防止対策については、認知件数をご報告いただいた。ひきこもりについては、相談件数や相談内容をご報告いただいた。具体的に申し上げますと、平成30（2018）年度の相談件数は27件で、男性が22件、女性が5件、平均年齢は30代半ばであった。大きく増加しているわけではないが、むしろ相談体制等を周知して来ていただくことが課題であり、一方では出て来られないからひきこもりだというジレンマがある。また、本人に会うことが困難であり、保護者が相談にくることも多いと聞いている。新児童館については、健全な遊びの提供、体力増進、子育て支援、世代間交流を通じた児童の健全育成を柱に掲げ、事業内容をご協議いただいた。あくまでも児童のための施設だということを忘れないようにすべきだのご意見をいただいた。子どもの居場所ということでは、改修中の青少年センターと合わせて2施設所管しているので、連携を図りたいと考えている。

江原委員

ありがとうございます。

秋田委員

1-2ページの人事報告について。幼稚園で精神的な理由による退職者が1名というご報告であったが、もう少し詳しく教えていただきたい。

職員課長

今年度採用した先生で、2学期ぐらいから人間関係と業務の多忙により悩みを抱えて病気休暇を取得しており、保護者ともお話しさせていただいたが、本人の希望もあって、新しい道をとということで退職を決断された。

秋田委員

悩みを抱える原因は1学期中のことだと想像するが、この方は新卒の方か。

職員課長

個人に関する回答は差し控えるが、他での勤務経験があり、3年目ぐらいの先生である。

秋田委員

今後、保育士や幼稚園教諭の採用を継続的に進めていく必要があると思うので、原因を分析して、当事者の卒業大学に市として講じた手立てをご理解いただくことが必要だと思う。それと同時に情報交換できる関係を築いておくのがいい。精神的な理由で退職した方の多くは、職場との関係がそこで終わってしまう。支援と継続的な関係作りに丁寧な分析と対応が必要だと思う。

2点目は、6-1ページの総合教育センターの12月行事実施報告について。随時行われている教育相談、12月は148件ということだが、様子を教えていただきたい。

総合教育センター主幹

小中学校の児童生徒とその保護者からの相談が多い。相談内容は複雑化しており、虐待や学校生活、教員との関係、不登校等様々である。

秋田委員

毎月同じぐらいの件数か。

総合教育センター主幹

大体同じぐらいの件数である。

秋田委員

継続の方も入っているか。

総合教育センター主幹

入っている。

秋田委員

毎月同じぐらいの人数ということは、ほとんどが継続の方だと推察する。相談を受けた後に、現場への情報提供はどのように行っているか。

総合教育センター主幹

当センターでケース会議をして、学校との連携が必要な場合は、相談員と指導主事が学校と情報交換し、支援策を検討する。

秋田委員

子どもに関する情報提供については理解した。教職員や学校のあり方や課題に関する情報提供の場合はどうか。

総合教育センター主幹

子どもが先生の指導に対して不安を感じているという場合は、管理職を通じて聞き取りや調査を行い、管理職から指導していただいている。

秋田委員

困った時には複数に関わることで子どもたちが安心して学校生活を送ることができるように引き続きお願いしたい。

16ページのこども未来部の12月行事実施報告について。24日(火)に開催された青少年問題協議会について、江原委員のご質問への回答をお聞きした感想を申し上げる。一昔前は、非行と言えは盛り場を徘徊したり集団でたむろしたりというものであったが、現代の非行は、スマートフォンを通じて地理的・時間的制約のないなかで1対1で行われるものが主になっている。どのようなやりとりが行われているか外からは見えない。そしてそれは、子どもがその後の人生でずっと引きずっていきかねない種類の問題につながっている。そういうことを踏まえて、非行の定義を新たに加えていただき、未然防止のための周知や対策について考える必要があると思う。

木下教育長

ありがとうございます。非常に大事な視点であり、検討したいと思う。

先生のメンタルヘルスについては非常に大きな問題で、先日の総合教育会議において教職員の資質向上のことが議論にあがったが、幼児教育の充実を進めるにあたって、教育・保育の内容と職場環境の向上を一緒に考えなくてはならないと思っている。職場環境は、やはり人間関係がベースで

ある。先生同士の信頼関係の構築も必要だが、管理職のリーダーシップも大切であると考えており、今後対策について検討していく。

秋田委員

ありがとうございます。教育長のお考えを聞いて、少しでもお役に立てたらと思ってお伝えする。学校訪問で幼稚園に伺ったときの印象は、各園の教職員の人数が少なくて皆さん筒一杯という感じ。精神的なきつさを解消するためには構成の多様性が効果的だ。たとえば、女性の集団には男性を、男性の集団には女性をとるように異性が混ざると空気が変わることが多い。これまでの保育所や幼稚園の先生は女性がほとんどである。そこで手始めに、頼れる用務員の方が入ってくださると、日々の生物のお世話や季節の設え、園庭の整備等とても助かると思う。職場の空気を換えつつ、業務の煩雑さと業務量の削減のために、異性が複数、1人は用務員の方が入ってくださったらいいのにと感じた。もう1点は、幼稚園教諭や保育士を育成する大学に勤めていた経験から申し上げる。保育所や幼稚園は、新卒時に限らず入れ替わりが激しい職場であり、学生とゼミの先生とのつながりが強いと思う。だから、大学側に卒業生の様子や市の取組を定期的に情報提供し、信頼関係を築くことが有効だと思う。そして、残念ながら退職されることもあるが、そのときにも丁寧にに関わり、体調が戻ったら支援してあげてほしいと伝えることが大切だと思う。

木下教育長

貴重なご提案をありがとうございます。丁寧に事後ケアしていけたらと思う。

川畑委員

情報提供させていただく。南小学校を訪問したときに校長先生が児童くらすの指導員の方の資質が高くなっているとおっしゃっていた。これから児童くらすに通う子どもの数は増えていくと思う。児童くらすでは異年齢交流が活発で、学校にはない教育的機能を持っていると思う。今後ますますレベルアップするために、研修会を大事にしていなければありがたい。

こども未来部長

ありがとうございます。南小学校の児童くらすは特に人数が多いところである。指導員は毎月全員参加の研修を重ねており、全体の資質を上げることを意識している。研修は講師の話聞くだけでなく、指導員が内容を考えたり、事例を出し合ったりするなど内容は多彩ある。教育現場と同様に、若い世代と中間の世代が不足気味で、どのように知識や技能を継承するかという課題はある。児童くらすは単なる放課後の預かりではなく、居場所としての可能性があると思っているので、教育委員会の所管となったことを契機に、より学校と連携して水準を向上させていきたいと考えている。

川崎委員 今後、保育所と同じように児童クラブのニーズも高まっていくことが予想される。指導員の方の資質向上ももちろん大事であるが、家庭教育の観点から、保護者になるべく早く家に帰って家族団らんの時間がもてるような社会になることを望んでいる。ファミリーサポートに関わっているが、子どもが寂しい思いをしている場面を目にすることも多い。ある一定の時間になったら、子どもは家に帰って家事の手伝いをしたり、自主的に勉強したりというように家庭で過ごす時間が増えれば嬉しい。

もうひとつは、いじめ防止フォーラムについて。参加者は生徒会の生徒が多く、立派な考えを主張していて感心した。一方で、このように地域と学校が交わって意見交換するような機会に、生徒会の生徒だけじゃなくて、日ごろ表舞台に出にくい生徒も参加できるような行事があればいいと思った。

学校教育部副参事 夏に実施したリーダーズセミナーは、生徒会中心であったが、今回のいじめフォーラムは、学校で広く参加者を募ったと聞いている。川崎委員がおっしゃるように出にくい生徒もいると思うので、何らかの工夫をしたい。

川崎委員 もちろん無理にということとは望んでいない。より多くの生徒にこのような機会が与えられたら嬉しい。

川畑委員 いじめ防止対策に関して情報提供させていただく。先日文部科学省で開催された市町村教育委員研究協議会に参加し、分科会でいじめと不登校について協議した。そのときに文部科学省の担当者が「これまでの日本の対策は、早期発見早期対応に偏っており、そのことを反省している。」と言っていた。今後は未然防止にシフトしていただろうと感じた。今後の具体的な対策についての話はなかったが、また何か情報が入ったら教えていただきたい。

(5) 議案第1号の審議（日程第3）

秘密会での審議の後、全委員一致で、「議案第1号 平成31年度伊丹市教育委員会賞の決定について」を可決。

(6) 議案第2号の審議（日程第4）

秘密会での審議の後、全委員一致で、「議案第2号 平成31年度ふれあい教育賞の決定について」を可決。

(7) 議案第3号の審議（日程第5）

秘密会での審議の後、全委員一致で、「議案第3号 平成31年度伊丹市優良児童・生徒顕彰の決定について」を可決。

(8) 議案第4号の審議（日程第6）

秘密会での審議の後、全委員一致で、「議案第4号 平成31年度伊丹市優秀教職員表彰の決定について」を可決。

(9) 閉会宣言

木下教育長（午後3時00分）

上記のとおり会議の要旨を記録し、ここに署名押印する。

伊丹市教育長 木下 誠

伊丹市教育委員会委員 江原 礼子